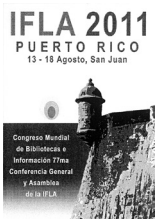
IFLAサンファン大会を振り返って

メタデータ	言語: 出版者: 日本図書館協会 公開日: 2024-01-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦,太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/0002000190

小特集★IFLA サンファン大会レポート



IFLA サンファン大会を振り返って

三浦太郎

プエルトリコ開催

1957年にブロードウェイ公演が始まった『ウェスト・サイド・ストーリー』は，米国ニューヨークに住む不良グループ・ジェット団の元リーダー・トニーと，対立するシャーク団を束ねるベルナルドの妹マリアの悲恋を描いたミュージカルの傑作である。シェークスピア『ロミオとジュリエット』を下敷きに，「トゥナイト」「マリア」などの曲に合わせた躍動的なダンス・シーンは，数多の観客を魅了した。1961年にはハリウッドで映画化されている。

映画のベルナルド役は，後年，NHK ドラマ『日本の面影』（1984年）で小泉八雲を演じるなど，親日家としても知られたジョージ・チャキリスであった。1950－60年代当時，マンハッタンのウェスト・サイドには海を渡り多くのプエルトリカンが移住したが，チャキリス演じるベルナルドやナタリー・ウッド演じるマリアもまた，カリブ海プエルトリコの出身であった。

中南米に位置するカリブ海は数多くの小島を抱える。カリブの名称は，15世紀末にコロンブスが北米大陸に到達する約１世紀前，小アンティル諸島から南米にかけて暮らした先住民・カリブ族の名に由来している。プエルトリコは現在，米国の自治連邦区（コモンウェルス）のひとつであり，本島とビエケス島，クレブラ島などからなる。プエルトが英語のPort, リコがRichを表し「豊かな港」を意味する。1493年にコロンブスが到着してのち，1508年からスペインの統治下に置かれ，本格的な入植が進められた。

本島北東部に「聖ヨハネ（サンファン）島」と呼ばれる122㎢の小さな島がある。本島とは橋で結ばれるが，この小島の西側一帯がかつての市街地オールド・サンファン地区である。プエルトリコはスペインとカリブ海を結ぶ要衝に位置し，防衛戦略上，この地区にエル・モロ要塞が築かれた。1540年代に砦の建設が始まり，17世紀に島の東側に築かれたサン・クリストバル要塞と併合されたのち，1780年代に完成した。海面からの高さが実に43m，壁の厚さ６ｍに及ぶ要害である。

16世紀にスペイン無敵艦隊を撃破したイギリスの猛将フランシス・ドレイクの襲撃をはじめ，18世紀まで幾度となく海賊の攻撃を受けたが，そのたびにこの要害を盾にスペイン守備隊が撃退した。1898年に米西戦争の結果，プエルトリコは米国に移譲されたが，長くスペインに統治された影響から，現在もプエルトリコの公式言語は英語ではなくスペイン語である。

かつて堅牢を誇ったオールド・サンファン地区

▲エル・モロ要塞

は，1983年にユネスコ世界遺産に登録され，いまは観光地としてその威容の面影をとどめている。今年８月13－18日，スペインの雰囲気を漂わせるこの地で「世界図書館情報会議（WLIC）：第77回IFLA 年次大会」（IFLA サンファン大会）が開催された。

大会概要と震災報告

カリブ海での開催は，1994年にキューバの首都ハバナで開かれて以来２度目となった。テーマは「図書館を越える図書館：みんなのための統合，革新，情報」である。

本誌10月号NEWS欄に既報のとおり，分科会やグループの会合が主に初日（13日）に設定され，開会式は翌14日に行われた。図書館訪問（ライブラリー・ビジット）は，最終日翌日（19日）に21か所で実施された。大会登録者は116か国から約2,500名と，例年に比べ２割以上の減少となった（このうち全日参加1,928名，１日参加228名。これに同伴者，ボランティア，助成対象者が加わる）。セッション数は219（公開は約80），企業展示ブース82，ポスター発表165であった。

▲大会会場（コンヴェンション・センター）

日本からの事前登録者は23名である。このうち，DAISYコンソーシアムの河村宏氏，獨協大学の井上靖代氏（本特集にも寄稿されている）ら８名が，プレ会議やセッション，ポスターなどで発表したほか，各分科会の会合でも，今年３月11日に起きた東日本大震災・津波関連の被害を中心に，複数の日本の委員から報告が行われた。

筆者も，開会式直後に同じ会場（グランドサロンA）で開かれた「震災からの復興」セッションにおいて，日本の図書館の震災状況を発表した[1)]。そこではまず，各国図書館協会から寄せられた哀悼の手紙に対する謝意を申し述べたあと，今回の大地震・津波による東北・関東各県の被害状況を報告した。そして，被災地の図書館における文献提供，レファレンス，資料修復，研修などの復旧支援の取り組みを紹介し，図書館復興に向けた長期的支援の必要性を伝えた。その際，支援は善意の押しつけであってはならず，被災地との相互のやりとりを通して，被災者側からの要望にこたえるよう，適切に支援していくことが重要である点も強調した。

本発表は今年６月，IFLA事務局のジョシー・アウウェルケルク氏から，JLA事務局に正式の発表依頼があり，これを受けたものである（同氏は２月，2013年開催候補地選定の視察団の一員として来日している）。準備にあたり，JLA東日本大震災対策委員会の西村彩枝子氏，米国大使館レファレンス資料室の橋本由希子氏，前実践女子大学の杉本ゆか氏に文案作成に協力いただき，東北大学の泉山靖人氏に被災地域の写真データを提供いただいた。また，７月13日に国立国会図書館で開催された報告会「東日本大震災の復興支援－図書館支援に求められていること－」をきっかけに，岩手県立図書館，宮城県図書館からも資料提供をいただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。

なお，「震災からの復興」セッションは当初，ニュージーランド，チリ，ハイチ，日本という，いずれも大地震による図書館被害を受けた国の復興状況の報告を予定していた。しかし，開会式が30分以上延びたことや，ニュージーランドの発表時間が予定の倍（40分）に及んだため，コーディネータを務めたダニエル・ミンチョ氏によるハイチの報告が取りやめとなるハプニングもあった。

サブテーマと公開セッション

本大会では，昨年のヨーテボリ大会と同様に五つのサブテーマが設けられ，公開セッションはそのいずれかに区分けされた[2)]。

［IFLAサンファン大会サブテーマ］

(1) オープンアクセスとデジタル情報源
(2) 政策，戦略，広報
(3) アクセスやサービスへの利用者要望
(4) ツール，技術
(5) アイデア，刷新，新しい局面への期待

ここでは二つほどセッションを紹介しておきたい。まず，(1)のうち「e-Bookの技術：世界的なアクセス可能性とすべての人びとへの情報」（16日16:00～18:00。「印刷物を読むことに障がいをもつ人びとにサービスする図書館（LPD）分科会」主催）である。

このセッションでは，河村宏氏が「デジタル時

▲会場内の「図書館ブールバード」コーナー

代の図書館で利用可能な電子出版」と題する報告を行い，年内に発表が予定されているDAISY4と，公式リリース間近のEPUB3の理念・概要を紹介した。この枠組みは，印刷物を読むことに障がいをもつ人びと（PD）のニーズをかなえ，誰もが遅れや余分な出費を強いられることなく，あらゆる情報にアクセスできることを目指している。河村氏はデジタル化に伴う著作権保護の問題に配慮が払われるべきと指摘しつつも，それがPDの文化遺産へのアクセス権を圧迫してはならない旨を強調した。

発表に合わせて会場では，日本障害者リハビリテーション協会の野村美佐子氏の製作した，マルチメディアDAISY版のThe Gift of the Magiが配布された。これは認知・知的障がい者を対象に，再生ソフトDolphin EasyReader Expressを使って，O.ヘンリーの短編『賢者の贈り物』を“読める”内容のCD-ROMで，参加者からも好評を博した。

同セッションでは，他に５件の発表が行われたが，最も印象的だったのは自らも視覚障がいをもつクリストファー・フレンド氏（ワールド・ブラインド・ユニオン）の発表であった。視覚障がい者は４万タイトルにアクセスできるが，95％の出版物からは除外されている。フレンド氏はこうした現状を批判し，著作権のしばりによって，PD向けに変換できる図書があまりに少ないことを訴え，“同じ図書を，同じ日に，同じ値段で”と力強い身振りで呼びかけた。この切実な叫びは非常に説得的であった。

このほか，サブテーマ(5)を柱としたセッションの中で，「絶え間ない革新とすべての人びとのための緑の情報」（15日16:00～18:00。「環境保護と図書館（ESL）」グループの主催）も興味深かった。

５名の報告者のうち，ハリー・サハヴィルタ氏（ヘルシンキ市立図書館）は，“図書館のエコフレンドリーさ”を論点に上げ，図書館はコレクションの貸出によって資源の循環に寄与し，非商業的な公的スペースの提供を通じて場の活用に貢献し，テクニカル・デバイスの無料提供によって環境への負荷を軽減していると述べた。また，“グリーンな図書館”に向けた取り組みとして，米国ユタ州のソルトレーク市で2003年の新図書館建設後，年間33％，金額にして6.6万ドルの節約に成功した事例が紹介された。同館はグリーンビルディングのLEED認証を受け，エネルギーや水資源の消費軽減を実現したという。

▲公開セッションの様子

各国において図書館の抱える課題は少なくないが，国や地域を超えて多様な見方に触れ啓発されることは，国際大会に参加する面白さのひとつである。

分科会会議

IFLA分科会とコア・アクティビティには，現在，25名の日本人図書館関係者が委員として参加している（JLAからの推薦は９名）。委員各位にはご多用中のところ参加していただき，この場を借りて御礼申し上げる。

今年はじめ，分科会委員の改選（半数）があった。筆者もJLAから図書館協会運営分科会（Management of Library Associations：MLA）に推薦していただき，５月に選挙を経て，2011－15年の任期で委員を委嘱された。本大会では初日（13日）12:00-14:30と最終日（18日）8:00-9:30の２回の会議に参加したほか，17日9:30-11:30にはジェニファー・ニコルソンIFLA事務局長の主催する国

立図書館協会会議に招かれた。また，18日夜にはオールド・サンファン市内のレストランで夕食会が開かれ，これにも参加した。

初日の会議では，新旧委員とオブザーバの自己紹介ののち，IFLA 理事会（GB）報告，2011年冬季会議の報告，MLA と関連の深い特別研究グループ（SIG）（新たな図書館員職グループ（NPSIG）と女性情報図書館グループ（WILSIG））からの報告などが行われた。また，MLA の活動の柱である，⑴デジタル資源をはじめとするコンテンツへのアクセス拡充，⑵IFLA の下での国際的なリーダーシップの発揮，⑶広報や専門職の推進（アウトリーチ），⑷破壊された文化遺産の再建，⑸多文化主義という五つのテーマそれぞれについて，促進すべき旨も確認された。

会議に参加したのは18名の正規委員（このほか４名は欠席）のほか，各国の図書館協会長や事務局長ら約20名のオブザーバである。会議後半には委員長選挙が行われ，前任のジャニス・ラシャンス氏（アメリカ専門図書館協会会長）の後任として，２名の候補から投票でジェラルド・ライトナー氏（オーストリア図書館協会会長）が新たに選ばれた。事務局のシルヴィア・スタッセローバ氏（スロバキア図書館協会会長）は留任した。

図書館協会の財政事情の苦しさは諸国とも同じ状況を抱えている。各国の図書館協会，そして IFLA 自体においても新規会員をどのように招き入れるか，知恵を出し合う必要性があるという認識で共通していた。17日の会議の中では，参加者から，“IFLA や協会が＜あなた＞に何を援助するかを期待するのではなく，＜あなた＞自身が何をできるかを考えなくてはならない。まずは＜あなた＞が大会に若い図書館員をひとり連れてくることから始めよう”との意見も出された。また，「アフィリエイト・メンバー」（会費が個人会員と同額で，投票権をもたない IFLA 会員）の呼びかけを進める意見も出された。

18日の会議では，2012年２月にドイツ・ベルリンで分科会委員のみによる冬季のワークショップを開催することが決定された。実質的な議論は，こうした冬季会議で行われるとも聞き及ぶ。今回，筆者は所属先の仕事（入試）の都合で参加は微妙であるが，できる限り，そうした機会をとらえメンバーとの意思疎通を図っていきたい。

おわりに

本大会期間中，16日夜には，日本からの参加者のうち現地で連絡のとれた方たち10名が集まり，オールド・サンファン地区のレストランで食事を楽しんだ。相互に歓談することができ，貴重なひと時であった。

18日の閉会式では，本大会で IFLA 会長職を退くエレン・タイス氏と，新会長のイングリッド・パラン氏（ブリティッシュ・コロンビア大学図書館）から挨拶があった（事務局長のジェニファー・ニコルソン氏は留任）。2013－15年の会長選挙の結果も報告され，シニッカ・シピーラ氏（フィンランド図書館協会事務局長）が選出された。

来年，IFLA 大会は８月11－17日にヘルシンキ（フィンランド）で開かれ，翌2013年は８月17－23日にシンガポールでの開催が決まった。末筆ながら，IFLA 分科会委員の方々をはじめ，現場の図書館員，大学の研究者，大学院生など，関係の皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

▲シンガポール国家図書館委員会委員長
エレイン・ング氏の挨拶（閉会式）

注

1）アメリカ図書館協会（ALA）の発行する *American Libraries* のウェブ版ブログ“Global Reach”にも紹介された。“Disaster-Stricken Libraries Suffer Painful Loss, Fight for Recovery”（08/15/2011）［http://americanlibrariesmagazine.org/global-reach］（最終アクセス日：2011年10月30日）

2）各セッションの発表資料については，IFLA ホームページ「プログラムと会議録」［http://conference.ifla.org/past/ifla77/programme-and-proceedings.htm］で，その多くを見ることができる。

（みうら　たろう：JLA 国際交流事業委員会委員長，明治大学）

［NDC 9：010.6　BSH：国際図書館連盟］